



年 組 名前

道新で
ワークシート

技術系不足 採用に苦戦

対象広げる企業、自治体

土木や建築など技術系の人材が不足する中、企業や自治体が学生の採用活動に苦戦している。人材確保を目指し、採用対象を広げる企業や、採用基準を見直す自治体が出ている一方、理系の室蘭工業大は「売り手市場」の中で学生が道外で順調に採用されており、採用・就職活動を巡って「悲喜」も「も」の様相を呈している。（横山清貴、田島工幸、生田憲）

人気の室工大生道外に流れる

「競争が非常に激しい」。機械部品加工の西野製作所（室蘭市中島本町）の西野義人社長はこう嘆く。

同社は2年前から高校生2、3人の新卒採用を毎年目指してきた。採用は直近3年間で計2人にとどまり、中途採用で補っている。西野社長は「高校とのパイプを太くし、人材を確保したい」と狙いを定める。工業系だけに絞らず、普通科の高校生も対象に広げて採用活動を進めたい考えだ。室蘭市内にある建設業者も、作業現場で働く高校生を今年は採用できなかった。約5年前から応募数が減り、「採用は1年に1人いるかないか」という状況だ。会社HPの採用情報欄を一新してスマホ対応にしたほか、市外の高校も訪問して努力を重ねている。ハローワーク室蘭によると、東日本大震災による復

興事業や北海道新幹線の延伸工事の影響で、人手不足が常態化しているという。事情は自治体も同じだ。室蘭市は6月1～15日に受け付ける土木・機械の技術職の採用試験で教養試験や専門的な知識を問う試験を課さず、書類審査と面接のみで採用する。市職員課は「今は学生に選んでもらう時代。人物重視の試験で、多くの学生に受験してもらいたい」と期待する。

土木と建築で各5人程度の採用を目指す登別市も、今年6月に実施の採用試験で受験生に専門知識を問う試験を課さない。事務職と同じ一般教養試験や作文、面接試験などで採用する。市総務部の担当者は「文系の学生でも受験は可能。専門的知識は入庁後に身につけてもらえれば」と話す。7月に受け付けを開始する予定の伊達市も、採用実

績がある大学の学部や高校に直接資料を送付し、アピールしていく構えだ。一方、学生側は「引く手あまた」の状況だ。室蘭工業大はここ数年、就職希望者の内定率は100%に近い数字を誇っている。

そのほとんどは道外だ。同大の溝口光男理事は「本州から『何人でもほしい』と声がかかる」と打ち明ける。2018年3月卒の就職者（学部卒・博士前期課程修了）のうち、室蘭市内就職者の割合は2・9%と16年卒を2・1ポイント回った。19年卒も学生優位の売り手市場が続く、待遇面で有利な本州の大手企業に流れる傾向は変わらないという。同大は地元企業との連携授業や企業見学会への参加を呼びかけ、地元就職を促す試みを重ねるもの、「まだ芽が出始めたところ」（溝口理事）にとどまっている。

2018年5月17日朝刊室蘭・胆振版

- ①次の文は、「売り手市場」という言葉の意味を説明したものです。空欄に入る語句を後ろのA～オから選びなさい。

企業や自治体（買い手）が したい人数に対し、 を希望する人（売り手）の人数が 状態で、売り手が優位な労働市場。

ア) 就職 イ) 内定 ウ) 多い エ) 少ない オ) 採用

1. _____ 2. _____ 3. _____

- ②「室蘭市」と「登別市」が採用試験で専門的な知識を問う試験を課さない理由を二つ書きなさい。

1) _____

2) _____